

: ° ☆。 , :: ★。 , :*: ° ☆。 , :*: ° 。 , :*: ° ☆。 , :*: ★。 , :*: °



みらいつうしん

11月号

2017年11月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 長南 康子

☆。 , :*: ★。 , :*: ° ☆。 , :*: ° 。 , :*: ° ☆。 , :*: ★。 , :*: °



運動会を終えて

今年度の運動会は天気に恵まれませんでした。皆様のご協力の下で無事に終わることが出来ました。本園にとって初めて行ったみらいホール及び体育館での開催となりました。見通しが不十分で、ご迷惑をおかけしたこともあったことと思います。屋内実施のメリット、デメリットを十分に考え、今後の運営に活かしてまいりたいと思います。貴重なご意見、ご感想もいただきました。ありがとうございました。

さて、運動会を振り返りますと、今年度は各学年の発達段階がよく見える取り組みだったと捉えています。皆様には学年ごとの入れ替えで、その姿をご覧いただけなかったことが大変残念に思います。

乳児クラスは特に日頃の遊びをそのままに、体を動かす遊びを親子で楽しんでほしいという願いをもっていました。お天気の良い日は毎日のように園庭でマルチパネによじ登ったり、保育者と追いかっこをしたりして長い時間遊んでいます。今回を省みますと、乳児の子ども達には運動会という形にとらわれず、園舎内で広く場所を設定して、お家の方と一緒にミニスポーツデイのように、自由に運動的な遊びを楽しみ、最後にみんなで歌を歌ったり、リズム遊びをしたりして、「楽しかったね」という思いで終了する方法もあるかもしれない。などと、早、今後の運動会に思いを馳せていますが、乳児の発達によりふさわしい行事の取り組み、改善に向けて、職員皆で検討を重ねていきたいと思っています。

幼児クラスについては模倣遊びが好きな3歳児はネコになって、演技や競技をしました。まだまだ保育者と一緒に動き、その中で楽しさを感じる年齢です。4歳児は集団の動きが随分出来るようになってきました。近くにいる友だちの動きを気にしたり、保育者でなくとも友だちの声かけにも耳を傾けようとする様子も見られます。そして、5歳児はチームの一員としての意識がもてるようになり、周りの動きを見ながら自分の行動がとれるようになっていきます。課題を自分で受け止める力がついてきています。

全学年を通して、共通することは保育者と子ども達との関係がよく見えることです。保育者のねらいや思い、願いが子ども達にどのように伝わっているか。関係性を付けることは短期間では出来ません。日常の積み重ねが何より重要です。また、保育者は当日のみではなく、行事に向かう過程や終わってからの個々の経験値を十分把握しながら子ども達と向き合い、指導の方向を考えていきます。

子どもの育つ過程は個々に違います。皆と同じ姿を性急に求める必要もありません。様々な経験を通して、自分の世界を一步ずつ広げていく子ども達の成長を見守っていきましょう。(長南)

